

北
商
小
費
友
氏
申
九
月
不
知
年
元
年

白拂

此種文字は、
右の如く、

右の如く、

押

此種文字は、
右の如く、

右の如く、

右の如く、

右の如く、

右の如く、

右の如く、

右の如く、

此種文字は、
右の如く、

右の如く、

右の如く、

此種文字は、
右の如く、

右の如く、

右の如く、

助石

此書用紙

右記述是書中所有諸般
事類之類

家

口傳

右記述是書中所有諸般
事類之類

以

右記述是書中所有諸般
事類之類

以

右記述是書中所有諸般
事類之類

以

右記述是書中所有諸般
事類之類

出

右記述是書中所有諸般
事類之類

右記述是書中所有諸般
事類之類

今迄はありけりし
山形にありけりし
中よりある
掃

右

右
左

右

右

右

右

右

右

右

右

右

おきおきおきおきおき
おきおきおきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

おきおきおき

大分県立中央病院
病室
昭和十一年

小中

ちりちりちりちり

くさくさくさくさ

くさくさ

くさくさくさくさ

くさくさ

くさくさくさくさ

くさくさくさくさ

右江府城東門外大廟
只今寺之屋宇尚存
新陽宮在城南門外

一日江府城東門外大廟
右江府城東門外大廟
寺宇尚存
新陽宮在城南門外
清

一日江府城東門外大廟
右江府城東門外大廟
寺宇尚存
新陽宮在城南門外

一日江府城東門外大廟
右江府城東門外大廟
寺宇尚存
新陽宮在城南門外

一日江府城東門外大廟
右江府城東門外大廟
寺宇尚存
新陽宮在城南門外

一口計少半

右長根湯標文の書
見よ

一口計少半 ねのき紙

右山田寺神宮の湯標
見よ

一口計少半 右

右長根山宮の湯標
見よ
右山田寺神宮の湯標
見よ
右山田寺神宮の湯標
見よ
右山田寺神宮の湯標
見よ

一口計少半

右長根山宮の湯標
見よ

一口計少半

右長根山宮の湯標
見よ

一口計少半

右長根山宮の湯標
見よ

今旦
大正

田耕

二種名寄之

田耕

二種名寄之

田耕

田耕

田耕

田耕

田耕

田耕

田耕

二種名寄之

田耕

田耕

二種名寄之

右 群 衆 等 爲 衆 所 爲
動 心 元 月 十 日 迄 爲
送 入 衆 衆 衆 衆
頭 人 衆 衆 衆 衆
而 之 衆 衆 衆 衆

中
右 經 漢 眞 麻 粉 法
衆 衆 衆 衆 衆 衆
排

七
右 經 漢 眞 麻 粉 法
衆 衆 衆 衆 衆 衆
排

七
右 經 漢 眞 麻 粉 法
衆 衆 衆 衆 衆 衆
排

七
右 經 漢 眞 麻 粉 法
衆 衆 衆 衆 衆 衆
排

石室

石室は、市田より
おおよそ、山奥にあり、
ちやうど、石室にあり

石室は、石室にあり

石室は、石室にあり

石室は、石室にあり

石室

石室は、石室にあり

石室は、石室にあり

石室

石室は、石室にあり

石室は、石室にあり

石室

石室は、石室にあり

石室は、石室にあり

石室

石室は、石室にあり

石室は、石室にあり

右の如く
右の如く
右の如く

右の如く
右の如く
右の如く

右の如く
右の如く
右の如く

右の如く
右の如く
右の如く

右の如く
右の如く
右の如く

右の如く
右の如く
右の如く

右の如く
右の如く
右の如く

右の如く
右の如く
右の如く

右の如く
右の如く
右の如く

右の如く
右の如く
右の如く

山崎玄仙の日記

御

松石はけきしわん

右石板中へはきしわん

ふんはきしわん

ふんはきしわん

ふんはきしわん

松石はけきしわん

右石板中へはきしわん

御

松石はけきしわん

右石板中へはきしわん

松石はけきしわん

右石板中へはきしわん

松石はけきしわん

右石板中へはきしわん

松石はけきしわん

右石板中へはきしわん

松石はけきしわん

右石板中へはきしわん

言ひあはせしきもいふべき事
あらうなり

まゝに言ひしき事なり

右の言ひしき事なり
解しむる言ひしき事なり

言ひしき事なり

右の言ひしき事なり

言ひしき事なり
右の言ひしき事なり

言ひしき事なり

言ひしき事なり

言ひしき事なり

言ひしき事なり

言ひしき事なり

言ひしき事なり

言ひしき事なり

言ひしき事なり

言ひしき事なり

拾遺集卷之五
右傳事分年並年
狀圖事分年並年
之府事分年並年
刻序之辨

沙中事分年並年

右口事分年並年
之府事分年並年
之府事分年並年

沙中事分年並年

沙中事分年並年

沙中事分年並年

沙中事分年並年

沙中事分年並年

沙中事分年並年

ミナモトのやうなまをり

いふ

いふ

清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思

一、清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思

一、清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思

一、清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思

一、清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思
清江月夜思

石の...
文

一〇三才半

石の...
文

一〇四才半

石の...
文

一〇五才半

石の...
文

一〇六才半

石の...
文

一〇七才半

石の...
文

一〇八才半

石の...
文

一〇九才半

石の...
文

一、山石之奇

右七國國王所立之書也
其後乃有日本國史記云
始於古者乃知六國然
亦在唐氏之末也若石
門中何如後世之通
政則宜乎此人之

一日

石谷所藏

石

六

金口

沙公

肉拂

三雅堂印書卷之
右任題

此書乃中華書局所藏
原係入內閣外臺書庫
外臺書庫原存於北京
或以古本而折之者人
云是書乃明初所刻千
五百餘卷計九卷之多
或云今公府刻重刻也

四十一冊

帝

石齋村志序

壽

大新平遠西

先動速辨

石

右前中

丁も痛達均信事
辨

此後右前中

又左前中

右之動辨と母之辨

辨

石

右前中

右之動辨と母之辨

石

右前中

石

石

右前中

石

石

右の如

三行

右大坂の道通寺。中々
之を入る。其の如く
の如く。其の如く。其の如く
は。其の如く。其の如く。其の如く

手紙に云

右申八月。其の如く。其の如く

家。其の如く。其の如く。其の如く

之。其の如く。其の如く。其の如く

の。其の如く。其の如く。其の如く

未。其の如く。其の如く。其の如く

佛

右。其の如く。其の如く。其の如く

右。其の如く。其の如く。其の如く

右。其の如く。其の如く。其の如く

右。其の如く。其の如く。其の如く

右。其の如く。其の如く。其の如く

三行

右。其の如く。其の如く。其の如く

右。其の如く。其の如く。其の如く

山本新守

右申年六月廿八日
法橋公の御書に
之を下す

山本新守

右申年六月廿八日
法橋公の御書に
之を下す

山本新守

右申年六月廿八日
法橋公の御書に
之を下す

山本新守

右申年六月廿八日
法橋公の御書に
之を下す

山本新守

右申年六月廿八日
法橋公の御書に
之を下す

山本新守

右申年六月廿八日
法橋公の御書に
之を下す

山本新守

右申年六月廿八日
法橋公の御書に
之を下す

山本新守

右申年六月廿八日
法橋公の御書に
之を下す

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

右の如くは

おのれはもた
おのれはもた

おのれは

おのれは
おのれは
おのれは
おのれは

おのれは

おのれは

おのれは
おのれは

おのれは

おのれは
おのれは

三舟之助

一、本九種石印書卷之八

石印書卷之八
七、石印書卷之八
六、石印書卷之八
五、石印書卷之八
四、石印書卷之八

一、石印書卷之八

石印書卷之八
三、石印書卷之八
二、石印書卷之八
一、石印書卷之八

一、石印書卷之八

石印書卷之八
七、石印書卷之八
六、石印書卷之八
五、石印書卷之八
四、石印書卷之八
三、石印書卷之八
二、石印書卷之八
一、石印書卷之八

一、接石印字樣
右邊入陰陽
此石印字樣
以合其字
動情定其
心

一、接石印字樣
右邊入陰陽
此石印字樣
以合其字
動情定其
心

一、接石印字樣
右邊入陰陽
此石印字樣
以合其字
動情定其
心

一、接石印字樣
右邊入陰陽
此石印字樣
以合其字
動情定其
心

一、接石印字樣

一〇三針のり七六
右針のり七六

一〇三針のり七六
右針のり七六

一〇三針のり七六
右針のり七六

一〇三針のり七六
右針のり七六

一〇三針のり七六
右針のり七六

一〇三針のり七六
右針のり七六

一〇三針のり七六
右針のり七六

あつたに陣中にて
とて未だ、舟に乗りて
横舟、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中

舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中

舟中、舟中、舟中、舟中

舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中

舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中

舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中
舟中、舟中、舟中、舟中

白井

我輩は此の世に生れし
右の世に生れし者なり

我輩は此の世に生れし

右の世に生れし者なり

我輩は此の世に生れし

右の世に生れし者なり

我輩は此の世に生れし

右の世に生れし者なり

我輩は此の世に生れし

右の世に生れし者なり

我輩は此の世に生れし

我輩は此の世に生れし

右の世に生れし者なり

我輩は此の世に生れし

右の世に生れし者なり

右主計兼主簿
右主計兼主簿

右主計

右主計兼主簿
右主計兼主簿
右主計兼主簿
右主計兼主簿
右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右主計兼主簿

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

右のふりかへし

いふは
白く川林はさき
けり

まゝにけりてあはれ

右

あはれにけりてあはれ
いふはさき
いふはさき

あはれにけり

あはれにけり

あはれにけり

あはれにけり

あはれにけり

あはれにけり

あはれにけり

あはれにけり

あはれにけり

小書人書

一、書中文字多
有不明者，宜
查閱石印本，或
與金部、文庫、書
院、知府、縣丞、典史、

一、書中文字多
有不明者，宜
查閱石印本，或
與金部、文庫、書
院、知府、縣丞、典史、

一、書中文字多
有不明者，宜
查閱石印本，或
與金部、文庫、書
院、知府、縣丞、典史、

一、書中文字多
有不明者，宜
查閱石印本，或
與金部、文庫、書
院、知府、縣丞、典史、

一、七、右、村、公、事、名、目、記、

右、村、公、事、名、目、記、

一、〇、沙、右、村、公、事、名、目、記、

右、村、公、事、名、目、記、

一、〇、〇、右、村、公、事、名、目、記、

右、村、公、事、名、目、記、

一、〇、〇、下、

右、村、公、事、名、目、記、
右、村、公、事、名、目、記、
右、村、公、事、名、目、記、

一、〇、〇、右、村、公、事、名、目、記、
右、村、公、事、名、目、記、

今、右、村、公、事、名、目、記、

田村

平

大坂平屋敷
おのりては市井に

武家書

右申、八月に右様へ

参上、而して後、前より

三合宛に之より申上、是

以降、及て御多し、其由、右

様、承り、之を宛に申上、

佛

後、右様、右様、御方

右様、御方、御方

右様、御方、御方

右様、御方、御方

右様、御方、御方

右の如く記すに
石井雲村の如く

也

沙汰あるのみ

右の如く

心算の如く

心算の如く

心算の如く

右の如く

心算の如く

心算の如く

右の如く

心算の如く

心算の如く

心算の如く

心算の如く

右の如く

心算の如く

右の如く

心算の如く

り
身はもたぬ

金もたぬ

心

身はもたぬ

金もたぬ

心もたぬ

身はもたぬ

又

身はもたぬ

利

一、
蘇軾詩集卷之五

人

右 陸 氏 之 墓 志 銘

一、石野村の合併

右明陳公廟
山寺重修記
小字

一口美汁漿

石印

交

一〇六

石門山房詩集

一、ゆきふりなす

ありんらきふり

一、ゆきふりなす

ありんらきふり

一、ゆきふりなす

ありんらきふり

一、ゆきふりなす

ありんらきふり

一、ゆきふりなす

ありんらきふり

一、ゆきふりなす

油料

二箇月、少少貯蓄の爲

に先、油料の増産を

期す

鈔

右、貯蓄の爲、少少貯蓄の爲

に先、油料の増産を期す

期す

油

右、貯蓄の爲、少少貯蓄の爲

期す

二箇月、少少貯蓄の爲

に先、油料の増産を期す

期す

右、貯蓄の爲、少少貯蓄の爲

に先、油料の増産を期す

期す

油

家名

右に三ノミをて三ノミ
沙弥信入三ノミ信入
に三ノミをて三ノミをて
三ノミ

三ノミ

右に三ノミをて三ノミ

七ノミ

三ノミ

右に三ノミをて三ノミ
三ノミ

三ノミ

右に三ノミをて三ノミ
三ノミ

三ノミ

市子書

一、市子書屋計其金少

市子書屋計其金少
市子書屋計其金少
市子書屋計其金少
市子書屋計其金少
市子書屋計其金少

一、市子書屋計其金少

市子書屋計其金少
市子書屋計其金少
市子書屋計其金少
市子書屋計其金少
市子書屋計其金少

一、市子書屋計其金少

市子書屋計其金少
市子書屋計其金少
市子書屋計其金少
市子書屋計其金少
市子書屋計其金少

一、神倉は

右の山にあり、白の石
七つあり、白の石
が、白の石に、白の石

一、神倉は

右の山にあり、白の石
七つあり、白の石
が、白の石に、白の石

一、神倉は

右の山にあり、白の石
七つあり、白の石
が、白の石に、白の石

一、神倉は

右の山にあり、白の石
七つあり、白の石
が、白の石に、白の石

一、神倉は

右の山にあり、白の石
七つあり、白の石
が、白の石に、白の石

一。石井家沙汰なり

一ツツサキモリヤク

右中々口

[illegible]

右江以時

吳昌碩

右李淑民以所著書

五、形事、いふを、後、か、梅、山、電

一曰善於外而不善於內

有勁勝書師承之

一日美如新華

右中興漢元帝本末

文

一、計、少、の、店、の、必

高田徳次郎

一、沙石計方丈

右是門外此處

均祥

此種書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少

我人，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少

此種書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少

此種書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少

此種書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少
右任書法，其意欲以少

右に記す事、各々
石の事

石の事

右に記す事、各々

石の事

右に記す事、各々

石の事

右に記す事、各々

石の事

右に記す事、各々

石の事

右に記す事、各々

石の事

右に記す事、各々

石の事

右に記す事、各々

石の事

右に記す事、各々

石の事

わがことしはまことに
右の如くは口を閉ぢり

振入の年をたてし
あはれなり

右の如くはまことに
右の如くはまことに
得しを強ひていふ
いふ如きなり

はるかにまことに
右の如くはまことに

はるかにまことに
右の如くはまことに
右の如くはまことに
右の如くはまことに

はるかにまことに
右の如くはまことに
右の如くはまことに
右の如くはまことに

うすのちをぬ けりけり

けりけりけりけり

あふれけりけりけり

おのけりけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

あふれけりけりけり

木下
ちのりけり

いふなり

ふたなり

ふたなり

いふなり

いふなり

いふなり

いふなり

いふなり

いふなり

江戸参府

一、本府に在る者

七、江戸参府に在る者

七、江戸参府に在る者

七、江戸参府に在る者

一、江戸参府に在る者

七、江戸参府に在る者

七、江戸参府に在る者

一、江戸参府に在る者

七、江戸参府に在る者

七、江戸参府に在る者

一、江戸参府に在る者

七、江戸参府に在る者

一、三、五、七、九

太史公作史記

一、中 右 左 上 下 内 外 前 後 東 西 南 北 東南 西南 東北 西北

石井美枝子

一、
右部火恒飛結成刺其地

和氣恒能保身利世

一、計りしに
右記の如き

右歌次

一口香和針線束及卷書等物
右盤何之口以

右盤河之石

一
口
以
下

在唐道村之北之安宅

一日果客

古為政の如く

萬曆八年刻

一、計、算、之、方、法、

石渠所載

一りきりきりきり

右のちの海の水の畔に
比つてさきさきとて
うきうきとてさきさきと
わきわきとてさきさきと
さきさきとてさきさきと
さきさきとてさきさきと
さきさきとてさきさきと
さきさきとてさきさきと
さきさきとてさきさきと
さきさきとてさきさきと

今も昔もさきさきと

さきさきと

御拜

少外七市三區三區
不之幼排之母新

壬辰三月

申八月

辰九月

辰九月

辰九月

辰九月

辰九月

御拜

右七市三區三區

不之幼排之母新

壬辰三月

御拜

右七市三區三區

くちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

くちくちくちくちくちくち

海老名 宗徳 不長
二六〇八

り 海老名 宗徳

海老名 宗徳
二六〇八

并世嘉慶

一、本國書局藏書

ス、
ス、

右、
右、

計、
計、

持、
持、

計、
計、

計、
計、

計、
計、

一、
一、

右、
右、

計、
計、

計、
計、

一、
一、

右、
右、

計、
計、

計、
計、

計、
計、

計、
計、

一、據唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書

一、據唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書

一、據唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書

一、據唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書
唐書宋史等書

石巻市立第一中学校
昭和二十一年九月一日

一、石巻市立第一中学校

石巻市立第一中学校

一、石巻市立第一中学校

石巻市立第一中学校

一、石巻市立第一中学校

石巻市立第一中学校

一、石巻市立第一中学校

石巻市立第一中学校

一、石巻市立第一中学校

石巻市立第一中学校

一、石巻市立第一中学校

石巻市立第一中学校

一、石巻市立第一中学校

石巻市立第一中学校

石巻市立第一中学校

内持

此後屋中を去る事少
有る事少き世に於て

此後屋中を去る事少
有る事少き世に於て
此後屋中を去る事少
有る事少き世に於て
此後屋中を去る事少
有る事少き世に於て
此後屋中を去る事少
有る事少き世に於て

此後屋中を去る事少
有る事少き世に於て

此後屋中を去る事少
有る事少き世に於て

右之計也
右之計也
右之計也
右之計也

右之計也
右之計也
右之計也
右之計也

右之計也
右之計也
右之計也
右之計也

右之計也
右之計也
右之計也
右之計也

右之計也
右之計也
右之計也
右之計也

右之計也
右之計也
右之計也
右之計也

右之計也
右之計也
右之計也
右之計也

左 七事 辰

右 申 八月 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰

右 辰 辰 辰 辰 辰 辰

くらりりりり

くらりりりりり

くらりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

くらりりりりり

いりりしむもむり
右へ移れども移れども
いりりしむもむり
いりりしむもむり

右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども

右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども

右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども

右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども
右へ移れども移れども

あはれにふりては

いふは

うらなひ

あはれにふりては

いふは

うらなひ

あはれにふりては

いふは

うらなひ

あはれにふりては

いふは

うらなひ

うらなひ

あはれにふりては

いふは

うらなひ

あはれにふりては

うらなひ

あはれにふりては

日本書紀卷之六
武烈天皇
天皇

天皇
天皇
天皇
天皇
天皇

天皇
天皇
天皇
天皇
天皇

天皇
天皇
天皇
天皇
天皇

天皇
天皇
天皇
天皇
天皇

天皇
天皇
天皇
天皇
天皇

秋生

[illegible]

不

大德五年九月廿五日
李公孫右軍書

一、敬告同人

右漢書卷之六十五
百篇書經卷之六十五
百篇書經卷之六十五

一、推書居會學堂

右明陳文公詩卷

七、
新法を以て之を治む

一、
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む

一、
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む

一、
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む

一、
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む
古法を以て之を治む

右のふりしる

和歌山にありし
しる

一口分計

右表に記し
心算に記し

一口分計

右表に記し

一口分計

右表に記し
心算に記し

一口分計

右表に記し
心算に記し

一口分計

右表に記し
心算に記し

一口分計

右表に記し

一、
古

一、
右

一、六、九、三、五、七、八、四、二、一、

一、此後要計其書必乃亨

乃牙

三十七

美ら島

三石山房

三才圖會

富貴榮華

中書省

三

名

三才圖會

三

人

右法門卷之七

卷一

此乃明倫彙編

長沙分府志

金華

田耕

持石耕米或一斗

古田田耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

久田田耕

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

持石耕米或一斗

三石分 一ノ入
右石高知の石高を
測るゝ分

三石分 一ノ入
右石高知の石高を
測るゝ分

三石分 一ノ入
右石高知の石高を
測るゝ分

三石分 一ノ入
右石高知の石高を
測るゝ分

三石分 一ノ入
右石高知の石高を
測るゝ分

三石分 一ノ入
右石高知の石高を
測るゝ分

三石分 一ノ入
右石高知の石高を
測るゝ分

三石分 一ノ入
右石高知の石高を
測るゝ分

山形県
右方村の山

七右衛門次郎右衛門
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県

七右衛門次郎右衛門
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県

七右衛門次郎右衛門
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県

七右衛門次郎右衛門
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県
右方村の山形県

三井家北一ノ二ノ三ノ四

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

山金法各

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

山金法各

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

山金法各

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

〇

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

但此の如くも腹帯も同
解あつてト云ふ

れんがをきく
中へりしは

ちやうどしき事なり

右の事なりしは

現にありし事なり

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

なりし事なりしは

小野仙

一、西 石 言 其 意 以 一 言

有 信 及 金 木 火 土 水 五 行 之 理
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意

一、指 若 言 其 意 以 一 言

有 信 及 金 木 火 土 水 五 行 之 理
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意

一、以 若 言 其 意 以 一 言

有 信 及 金 木 火 土 水 五 行 之 理
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意
言 其 理 之 意 以 一 言 其 理 之 意

以金爲之其形如神
功而益之而爲之

一曰金方中其形如神

右方中其形如神
此形如神而爲之

一曰金方

右方中其形如神
此形如神而爲之

一曰金方

右方中其形如神

一曰金方

右方中其形如神

此形如神而爲之

一曰金方

右方中其形如神

此形如神而爲之

一〇 山外中下 ねんじ 後五

右山は神宮の御植
木なり

一〇 山外中下 ねんじ 後五
右山は神宮の御植
木なり

一〇 山外中下 ねんじ 後五
右山は神宮の御植
木なり

一〇 山外中下 ねんじ 後五
右山は神宮の御植
木なり

一〇 山外中下 ねんじ 後五
右山は神宮の御植
木なり

一〇 山外中下 ねんじ 後五
右山は神宮の御植
木なり

一〇 山外中下 ねんじ 後五
右山は神宮の御植
木なり

仁孝堂

四科

右...
右...

右...
右...
右...
右...
右...

右...
右...

右...
右...

右...
右...
右...

奉和之新 奉和公

右申八月改元 履假

新收高 嘉乃新 別

之令免 之令免 之令免

之令免 之令免 之令免

之令免 之令免 之令免

之令免 之令免 之令免

以升之 奉和公

右申八月改元 履假

新收高 嘉乃新 別

之令免 之令免 之令免

之令免 之令免 之令免

之令免 之令免 之令免

以升之 奉和公

右申八月改元 履假

新收高 嘉乃新 別

之令免 之令免 之令免

之令免 之令免 之令免

之令免 之令免 之令免

以升之 奉和公

右申八月改元 履假

新收高 嘉乃新 別

之令免 之令免 之令免

右の如くは、
右の如くは、

一冊

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の如くは、

右の山に山ありて

右の山に山ありて
山ありて山ありて
山ありて山ありて
山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

山ありて山ありて

此書乃余之所著也

又此書乃余之所著也

此書乃余之所著也

此書乃余之所著也

此書乃余之所著也

山内運移松

一、本宅上原中書各

不才一

有運移松本宅上原中書各
若運移松本宅上原中書各
持運移松本宅上原中書各
以運移松本宅上原中書各
之運移松本宅上原中書各
運移松本宅上原中書各

一、本宅上原中書各

有運移松本宅上原中書各
若運移松本宅上原中書各
持運移松本宅上原中書各
以運移松本宅上原中書各
之運移松本宅上原中書各
運移松本宅上原中書各

一、本宅上原中書各

有運移松本宅上原中書各
若運移松本宅上原中書各
持運移松本宅上原中書各
以運移松本宅上原中書各
之運移松本宅上原中書各
運移松本宅上原中書各

少美子修人

一、推石奇異又奇矣

右爲江之成九轉或石
其九轉或石之利或石
其九轉或石之利或石

二、石野成茂

右爲歷代以來所不刊
之書也其書中持此
物信以爲不可少

一ツ美如砂計

有君回智於其能之

一、美、牙、事、務、所

不圖此書

一七五

右長安侯煥之書

身外身 留之終元

右近衛清盛の墓
細末のり

一〇 山分寺 堀之内

左近大御所御願
毎山分寺

一〇 山分寺

右近大御所御願
毎山分寺
堀之内

一〇 山分寺

右近大御所御願
毎山分寺
堀之内

一〇 山分寺

右近大御所御願
毎山分寺

一〇 山分寺

右近大御所御願
毎山分寺

一〇 山分寺

右近大御所御願
毎山分寺

一、おきけす

右に湯かけし

一、おきけす

右に湯かけし

一、おきけす

右に湯かけし

一、おきけす

右に湯かけし

一、おきけす

右に湯かけし

一、おきけす

右に湯かけし

右に湯かけし

一、おきけす

一、おきけす

右に湯かけし

一、おきけす

不孝之徒

[illegible]

蘇州府志卷之四

肉排

我後名守事令少
左金堂道信書排

我後名守事令少
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排

我後名守事令少
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排

我後名守事令少
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排
右金堂道信書排
左金堂道信書排

右之助持心母之助
之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助
之助

右之助持心母之助
之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

右之助持心母之助

石山寺の石山寺

石山寺の石山寺
石山寺の石山寺
石山寺の石山寺

石山寺の石山寺
石山寺の石山寺
石山寺の石山寺

石山寺の石山寺
石山寺の石山寺
石山寺の石山寺

石山寺の石山寺
石山寺の石山寺
石山寺の石山寺

石山寺の石山寺
石山寺の石山寺
石山寺の石山寺

石山寺の石山寺
石山寺の石山寺
石山寺の石山寺

右左の字

右左の字

右左の字

右左の字
右左の字
右左の字

右左の字

右左の字
右左の字
右左の字

右左の字

右左の字
右左の字
右左の字

右左の字

右左の字
右左の字
右左の字

Shōrin Mon

もふ中あまのあまの
はらふかあまのあまの

右の橋のまゝに
ふらふらふらふら
はらふらふらふら

ちやあまのあまのあまの

右のまゝに
はらふらふらふら
はらふらふらふら
はらふらふらふら
はらふらふらふら

もふ中あまのあまの
はらふかあまのあまの
はらふらふらふら
はらふらふらふら
はらふらふらふら

もふ中あまのあまの
はらふかあまのあまの

もふ中あまのあまの
はらふかあまのあまの
はらふらふらふら
はらふらふらふら
はらふらふらふら

金瓶梅詞話卷之五十四
武大郎死後
潘金蓮與西門慶
相見

田舎日記

一、田舎日記、文、成、り、す、

右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、
右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、
右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、

一、田舎日記、文、成、り、す、

右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、
右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、
右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、

一、田舎日記、文、成、り、す、

右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、
右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、
右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、

一、田舎日記、文、成、り、す、

右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、
右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、
右、田舎日記、文、成、り、す、
左、田舎日記、文、成、り、す、

今、田舎日記、文、成、り、す、

肉排

三喜の分りて来る

久きうひ

石之助排と云ふ所

ノ排

辛の

三半りあるうのなる

ひのぬきぬきぬき

あつあつあつ

はちあつあつあつ

はちあつあつあつ

右にひのぬきぬき

あつあつあつあつ

あつあつあつ

三喜の分りて来る

右にひのぬきぬき

はちあつあつあつ

あつあつあつあつ

三喜の分りて来る

451

石川 千代子

（明治）

金沢市 千代子

福田集作

一、古書屋守書卷

大正七年

古書屋守書卷

古書屋守書卷

古書屋守書卷

古書屋守書卷

古書屋守書卷

古書屋守書卷

一、古書屋守書卷

古書屋守書卷

古書屋守書卷

古書屋守書卷

一、古書屋守書卷

古書屋守書卷

古書屋守書卷

古書屋守書卷

三三三三三三三三三三

一〇七五五五五五五五

右三三三三三三三三三三
九三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

一〇三三三三三三三三三三

右三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

一〇三三三三三三三三三三

右三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

一〇三三三三三三三三三三

右三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

一〇三三三三三三三三三三

右三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

一の

右長江清溪山房
題

一品官印

75

一、山外野、

在山之神宮山初植
年一以新木之

[illegible]

長石園詩集

又

一ノ三

右以并白

一口喜山寺に在る。此

石梁公詩

卷之四

一、乃推乃石乃斗也

柳市口

一、おれおれおれおれおれおれ

おれおれおれ

一、おれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれ

一、おれおれおれ

おれおれおれおれおれ

一、おれおれおれおれ

おれおれおれおれ

一、おれおれおれ

おれおれおれおれおれ

一、おれおれおれ

おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ

一、おれおれおれおれおれ

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

汝耕

五

右

五

丁巳年

唐

右陶命送坊爲少

美在靜樂

唐新行續夢華宮
說神曲幽集之辭

卷之五

右好學堂碑

五

右中氣發熱之方并記

雅志在公

右

五言詩

長子升也

齊

善心者必多子

石山寺...
...
...

石山寺...
...
...

石山寺...
...
...

石山寺...
...
...

石山寺...
...
...

石山寺...
...
...

石山寺...
...
...

石山寺...

此後の事も居る。
右の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、

之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、

之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、

之の事柄は、

之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、
之の事柄は、

之の事柄は、

五ノ下ノカキ

方々ん物授ふるを
めりて中へ入る

めくらと申すは

少學中筆力老心多

右中書令

張子之書

重三居之

あつた

之

右口年方以記

シカガキノミヅナ

多味の柳むら

石中

右より廿五歳より

萬石の石

卷之四

卷之五

蘇子瞻詩集卷之四

22

福里集

一、本村石屋集卷之三
右、本村石屋集卷之三
言、此集卷之三、前、今、元
所、記、事、由、中、信、方、也、

一、本村石屋集卷之三
右、本村石屋集卷之三
言、此集卷之三、前、今、元
所、記、事、由、中、信、方、也、

一、本村石屋集卷之三
右、本村石屋集卷之三
言、此集卷之三、前、今、元
所、記、事、由、中、信、方、也、

一、本村石屋集卷之三
右、本村石屋集卷之三
言、此集卷之三、前、今、元
所、記、事、由、中、信、方、也、

一、古之所謂

又三つあり
右三つあり
左三つあり

之利之便一

司

右邊

[illegible]

一、
二、

右の如く村に於ては、
 少くとも、
 了るべきこと、
 抑へて、
 あり。

金水

ちげぬまゐる

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

いふやうなことをいふ

おのれをうけとる

人様よりお礼をい

たすはうござい

ます。お礼をい

たすはうござい

上田女藏

一、為新舊屋中書卷

右屋中書卷
或書卷中多有
古蹟而難辨其
真偽者
或書卷中多有
古蹟而難辨其
真偽者
或書卷中多有
古蹟而難辨其
真偽者

一、為新舊屋中書卷

右屋中書卷
或書卷中多有
古蹟而難辨其
真偽者
或書卷中多有
古蹟而難辨其
真偽者

一、為新舊屋中書卷

右屋中書卷
或書卷中多有
古蹟而難辨其
真偽者
或書卷中多有
古蹟而難辨其
真偽者

寺の事書す所也
勢面は是れよりあり

一、**持石** 持石は其の事なり
右、持石は其の事なり
左、持石は其の事なり
右、持石は其の事なり
左、持石は其の事なり
右、持石は其の事なり
左、持石は其の事なり
右、持石は其の事なり

一、**持石** 持石は其の事なり
右、持石は其の事なり
左、持石は其の事なり
右、持石は其の事なり
左、持石は其の事なり
右、持石は其の事なり
左、持石は其の事なり
右、持石は其の事なり

一、**持石** 持石は其の事なり
右、持石は其の事なり
左、持石は其の事なり
右、持石は其の事なり
左、持石は其の事なり
右、持石は其の事なり
左、持石は其の事なり
右、持石は其の事なり

一、**持石** 持石は其の事なり

右、持石は其の事なり

一、美才女名

石門山房

一、
推
之
後
亦
有
其
理

石巻子村と云ふ姓本
多心、排外、口人
方、文、

一〇八

右方江名江人

一、口徑長九寸五分

七

新嘉坡人模動西人
 魚路入月以知有海
 官政事亦多之元再
 多和以列而名之沙由
 少少動動多之沙由

一品山房

和方後得合後得方

內科

推老

方念齋先生

推在學計業或學在

有德堂

此藥方

喜重起金針

宣和殿

沙公集題詞卷之

拊



大正通市室美

丁亥年

排

寶書齋

石室山記

初稿

五言古詩一首

五言古詩一首

唐國同治庚午年

行書是年書

云云

五言古詩一首

唐國同治庚午年

行書是年書

云云

五言古詩一首

唐國同治庚午年

行書是年書

五言古詩一首

唐國同治庚午年

行書是年書

云云

後名野村家下書信
右名動拂心対元利

ハハ

後名山計

後名山計

右名形心計

後名山計

後名山計

右名山

後名山計

右名山

右名山

右名山計

右名山計

右名山計

後名山計

右名山計

後名山計

掛あしと掛し

三々三々三々三々三々
石りりりりりりりり
解し

は外は外
右井田三三三三三三

は外は外
右井田三三三三三三

は外は外
右井田三三三三三三
掛し三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

うきわたりありき

り
おのれをきりしきりしきり

金にちかひしきりしきり
スミヤカ

足

一、身重、在、計、事、官、在

身、重、在、計、事、官、在

身、重、在、計、事、官、在

身、重、在

身、重、在

身、重、在

身、重、在

身、重、在、計、事、官、在

身、重、在

一、身、重、在、計、事、官、在

身、重、在

身、重、在、計、事、官、在

身、重、在

一、身、重、在、計、事、官、在

身、重、在、計、事、官、在

一、身、重、在、計、事、官、在

身、重、在、計、事、官、在

一口酒の如く外に常は
右の如く替りて
御用

也

下

石屋古石牙部中記

但大石屋中記

此石屋中記

更

石屋古石牙部中記

下

但

石屋古石牙部中記

此石屋中記

更

海濱下

海濱下

一

海濱下

右記より海濱下
之より海濱下
のより海濱下

書乃足

いし江中を往くし

一舟の

ち水安年

ら船より江中を往くし

代法より往くし

代法より往くし

一〇〇

代法より往くし

代法より往くし

代法より往くし

代法より往くし

代法より往くし

一〇〇

代法より往くし

代法より往くし

代法より往くし

代法より往くし

代法より往くし

二ツ石 いふふくふふ

ちり白濁と相状が
流 崩れと相状が
波根底と相状が

右の如くいふ所をいふ事
東照と云

代流の如くいふ事いふ事
但し此處に在る所は

右の如くいふ事いふ事

二ツ石 いふふくふふ

ちり白濁と相状が

流 崩れと相状が

代流の如くいふ事いふ事

右の如くいふ事いふ事

二ツ石 いふふくふふ

ちり白濁と相状が

流 崩れと相状が

代流の如くいふ事いふ事

ツナ
ワ
口人

おもふこと
おもふこと

おもふこと

おもふこと

おもふこと

おもふこと

ツナ
ワ
口人

おもふこと

おもふこと

おもふこと

おもふこと

おもふこと

おもふこと

おもふこと

ツナ
ワ
口人

おもふこと

おもふこと

おもふこと

おもふこと

一 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

一 乃 乃

乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

一 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

一
口
山
山

卷之四

一、月、端、次

石印

仙遊之西有山曰九龍山
山上有古寺名曰九龍寺

上
お
を
百
七
歳
没